

答え合わせ・解説

問1	答え 1 金利	日本銀行は国債を買い入れることで銀行の持つ資金を増やします。すると、銀行は貸し出すお金に余裕ができるため、企業や個人へのお金の貸し出しを促進しようと金利を下げます。金利が下がると借金がしやすくなるため、投資や消費が活発になり景気の回復が期待されます。
問2	答え 2 輸出	円高になると、海外で販売する製品の現地通貨建て価格を高く設定せざるを得ず、販売量が落ちるか、同じ価格で売れば円換算の利益が減るという二重の苦しみを味わいます。これにより、輸出産業の収益は大きく悪化しやすくなります。
問3	答え 1 金融	預金者からお金を預かり、それを企業や個人へ貸し出す銀行などの金融機関がこの仲介役を担います。お金の貸し手は利息を受け取り、借り手は事業や購入のために資金を得ることで、経済活動が活発になります。
問4	答え 1 物価	円安になると、海外から輸入する品物の価格が日本円換算で高くなります。このコスト増を避けるために販売価格が引き上げられ、結果として国内全体の物価が上昇します。これが家計を圧迫する大きな要因となります。
問5	答え 1 デフレーション	デフレーションでは、モノの価格が下がり続けるため、企業は売上が減少します。また、お金の価値が上がるため、消費者は将来の値下げを期待して買い控えを行い、さらなる不況を招く悪循環に陥りやすいのが特徴です。
問6	答え 1 輸入	円高になると、海外の商品を少ない日本円で買うことができます。これにより、燃料費や原材料費のコストが下がるため、輸入企業はコスト削減の恩恵を受けることができます。また、輸入品の価格が安くなれば、家計にとっても生活費を抑えられる効果があります。
問7	答え 3 国債	国債は国が発行する債券で、購入者には利子が支払われます。日本銀行はこの国債の発行事務や、満期を迎えた時の元利金の支払いを代行する役割を担っています。これにより、国債の流通が安定し、スムーズな資金調達が可能になります。
問8	答え 3 購買力	購買力とは、お金を使ってモノやサービスを購入する能力のことです。物価が上がると、これまでと同じ金額を払っても以前ほど多くのモノが買えなくなります。つまり、実質的な購買力が低下し、消費者は生活水準を維持することが難しくなります。
問9	答え 4 最後の貸し手	民間銀行同士でも資金の貸し借りができない異常事態において、日本銀行が資金を貸し出すことで破綻を回避させます。これが「最後の貸し手」としての機能です。この存在があることで、預金者は安心して銀行にお金を預け続けられます。
問10	答え 4 国債	日本銀行が市中銀行から国債を買い入れると、銀行の資金が増えて市場のお金の流れが活発になります。逆に、日本銀行が国債を売ると、市中銀行の資金が日本銀行へ移動し、市場のお金の量が減る仕組みです。
問11	答え 1 輸出企業	円安になると、海外で商品を販売して得た外貨を日本円に替えた際、以前より多くの日本円を受け取ることができます。そのため、自動車メーカーや電機メーカーなど、海外での売上比率が高い輸出企業にとっては、業績が向上する追い風となります。
問12	答え 3 変動相場制	1973年以降、主要国は通貨の交換比率を市場の需給関係に応じて毎日、毎時変動させる変動相場制へ移行しました。これにより、各国の経済情勢や金利差、政治状況によって為替レートが柔軟に動くようになっています。
問13	答え 4 通貨	インフレーションが起こると、同じ金額のお金で買えるモノの量が少なくなります。これは裏を返せば、お金そのものの価値（購買力）が低下していることを意味します。モノの値段が上がれば上がるほど、対外的にお金の価値は小さくなってしまいます。
問14	答え 2 金融政策	金融政策は、景気の加熱や不況に対処するための手段です。景気が良い時は金利を引き上げてお金の貸し出しを抑制し、逆に不況の時は金利を引き下げてお金が回りやすいように調整します。この操作によって物価を安定させ、経済が順調に発展するように支えています。
問15	答え 2 金融政策	日本銀行が行う金融政策は、民間銀行が日本銀行から借りる際の金利を調整したり、市場に出回るお金の量を操作したりすることで、景気をコントロールします。金利を下げれば企業は投資しやすくなり、金利を上げれば景気の過熱を抑える効果があります。